

窒素やリンなどの主要有機物は減少しているのに、なぜ数値が悪化したのか。県が「犯人」とみているのが「難分解性有機物」と呼ばれる謎の有機物だ。微生物でも分解できず、最後の

にも装置を琵琶湖上に浮かべる予定だ。今中教授は「琵琶湖は独自の生態系を持っている。次世代にきちんとした水を飲んでもらうためにも、水質改善は緊急の課題だ」と話している。